

5時間レースをトラブルなく完走し クラス7位で今季初ポイント獲得



Team Noah「マツハ車検 GR Supra GT4 EVO2」は、4月18～19日に鈴鹿サーキット(三重県)で開催されたENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 第2戦「SUZUKA 5時間レース」に参加。初夏のような天候のもとトラブルなく4人のドライバーで5時間を走り切り、ST-Zクラス7位で連続完走。新体制での初入賞で初ポイントを獲得した。

今回のドライバーは開幕戦同様、ジェントルマンドライバーの下垣和也を軸に、Bドライバーをチームのエースである富田自然(あるが)、Cドライバーを大分出身の森田真心(こころ)、Dドライバーを福岡県在住で22歳の永原蒼翔(あおと)の4名で臨む。

3月21～22日にモビリティリゾートもてぎ(栃木県)で行われた開幕戦では、4時間レースの序盤にマシントラブルに見舞われ修復のために遅れを取ったが、若手ドライバーのマイレージを増やすという作戦に切り替え、森田、そのレースがツーリングカーレースデビュー戦となった永原がそれぞれ1時間以上のステントをこなし、マシンの挙動やタイヤのマネジメントなどを学ぶことができた。結果は惜しくもポイント圏外のクラス11位だったが、チーム全体のレベルアップにつながるレースとなった。

今回のもてぎ4時間レースに出走した車両は、全9クラス計47台。ST-Zクラスは、7台のGRスープラを含め国内外のGT4マシン5車種計12台がエントリーした。公式予選は18日、晴れで気温23℃、路面温度39℃で初夏のような気候の14時にスタート。A、Bドライバー2名、下垣と富田のタイム合算の結果はクラス7位で総合14位。また森田と永原も基準タイムをクリアした。

5時間の決勝レースは19日、薄曇りで気温25℃、路面温度35℃というコンディションの12時4分にスタート。開幕戦同様、下垣がスタートドライバーを務め、最低義務周回時間の75分をこなさなければならない。ライバルチームの多くはスタートにプロのBドライバーを据えていることもあり、下垣は無理なバトルを避けステディに走行。順位はクラス11位まで下がるもこれは予定どおり。75分間のドライブを終え34周で下垣がピットインすると森田に交代。給油のみでタイヤは無交換で森田はコースへ。クラストップ車両のマシントラブル、ライバルチームのピットインのタイミングもあり森田は39周目にはクラス9位へ順位を上げた。

森田のステントは75分を予定で、交代の時間が近づいていた頃、ヘアピンでストップした車両があり14時34分にFCY(フルコースイエロー)となった。森田はピットロード入口の数百m手前の130R先を走行中でピットインできず。8分後にFCY解除となり、ラス5位へ順位を上げた70周でピットインしここで永原に交代した。フレッシュタイヤを履いた永原はクラス9位でコースへ。65分という短いステントながら、スーパーFJでも走った経験のある鈴鹿を周回し95周で最後のピットインを済ませた。

アンカーの富田は103周目に1台をかわし8位へ。さらに2周差のあったクラストップを抜き返し1周差とした。終盤にはさらに1台に追いつきこれをかわしてクラス7位、総合13位でチェッカー。大きなトラブルもミスもなく無事完走を果たし、今季初のポイントを獲得した。次の第3戦は、6月5～7日に富士スピードウェイにおいてシリーズ最長の24時間レースとして開催される。

下垣和也「フルタンク時のクルマの扱いが今ひとつできていませんでした。これが課題ですね。レースは何が何でもつながないといけないので坦々と走りました。僕個人としては富士24時間はスキップするので、次は7月の日本一好きなオートポリス戦です。チームの地元コースということでデータもそろっていると思うので、しっかり走って表彰台に乗れるよう頑張りたいと思います」

富田自然「今週はスープラ勢がセッティングなど手こずっていた印象があるのですが、僕らは最後の最後までそれなりに仕上がってある程度のペースで走ることができました。今後は予選からみんながシャキッとしたタイムが出せるようなクルマに作り上げて行きたいと思います。まだ満足できるような状態ではありませんが、次回に向けてデータを見直して練り直して来ます」

森田真心「130Rを抜けたところでFCYとなりました。もうちょっとペース良く走っていればタイミング良くピットインでき順位も2～3上げられたはずなので、それは申し訳ない気持ちです。初日からクルマにうまくアジャストできず、予選は少しマシンになり今日はステント終盤に良くなりましたが、足を引っ張った感じで、点数は100点満点の10点です。次に向けてしっかり準備します」

永原蒼翔「ツーリングカーで鈴鹿を走るのは初めてだったので、それに合わせていくのは難しかったのですが、レースを1時間走ってみて動きが分かって来ました。あとはタイヤのマネジメントとライバルとのギャップを作らないような走りをするのが勉強になりました。富士は去年のFJ日本一決定戦で6位になりましたし、24時間では先輩方に負けずに走りたくと思います」